

## ◆ 今週のコメント

- ・ 新型インフルエンザ(A/H1N1)患者の集団感染(クラスター)の第34週の報告数は、京都府(京都市を含む。)では先週に比べ若干減少したものの、全国では増加しています。新型インフルエンザによる全国の入院患者数は、8月19日～25日で105人で、そのうち基礎疾患を有する者等が43人です。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は1.22(50例)で、第30週とともに本年度で最も高い値となっており、過去5年平均値(0.59)を大きく上回る値となっています。年齢階級別では、1歳(23例)が46.0%と最も多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は2.12(144例)で、先週(1.25)に比べて、約1.7倍となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 新型インフルエンザに関わる届出の変更点について(医療機関の皆様へ)

いつも本市の感染症発生動向調査に御協力いただき、ありがとうございます。

8月25日付けで厚生労働省令が改正され、医療機関において集団発生が確定した場合の患者(疑似症を含む。)発生届が不要となりました。

インフルエンザによる集団発生が疑われる場合の最寄りの保健所への連絡につきましては、引き続きお願い致します。連絡内容は、「患者の属する施設の名称及び所在地」、「患者から聴取した疫学情報」となっています。

なお、PCR検査については、集団発生時は原則不要となり、入院患者や基礎疾患を有する者等で重症化するおそれが高い者の属する施設等での集団感染例等に限られることとなります。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 6例(肺結核 5例, 肺外結核 1例, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 4例)  
【1月以降の累積報告数 260例(肺結核 167例, 肺外結核 65例, 無症状病原体保有者 28例), (喀痰塗抹陽性 81例)】

### 新型インフルエンザ(A/H1N1)情報

- ・ 集団感染(クラスター)報告件数の推移

	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週
京都府	3	7	21	36	34
全国	172	335	554	662	794

- ・ 全国の入院患者数

	第32週	第33週	第34週
患者数	48	86	105
うち、基礎疾患等を有する者	18	36	43

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	2.12	144
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.66	109
	② 手足口病	1.22	50
	③ ヘルパンギーナ	0.93	38
	④ 水痘	0.54	22
	⑤ 突発性発しん	0.41	17
眼科	流行性角結膜炎	1.00	10

### 病原体情報

ありません。

### 【次ページ以降の主な内容】

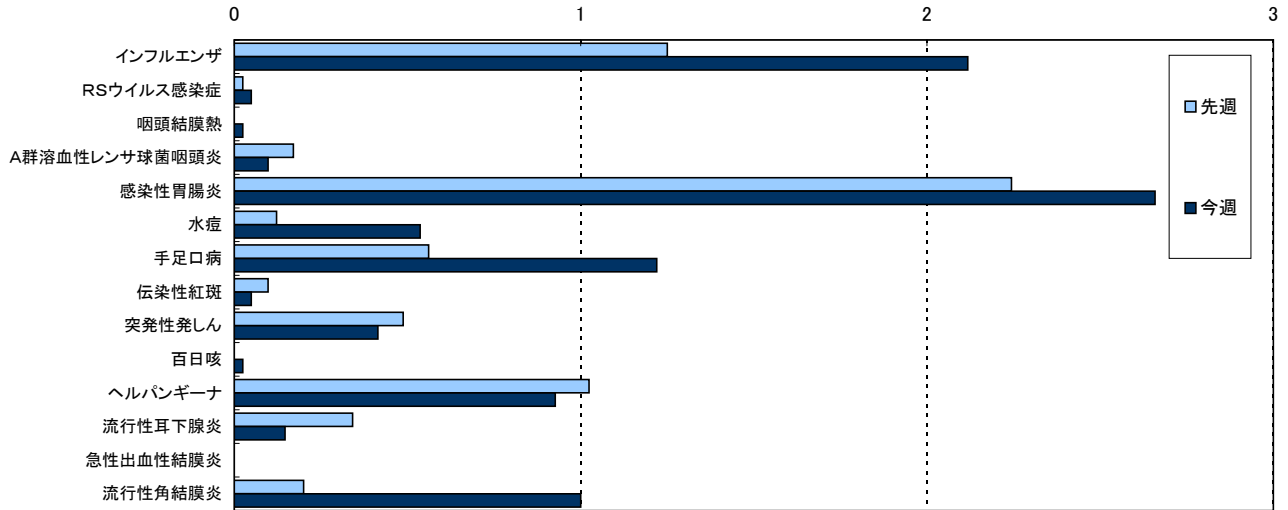
発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

付表(疾病, 保健所別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

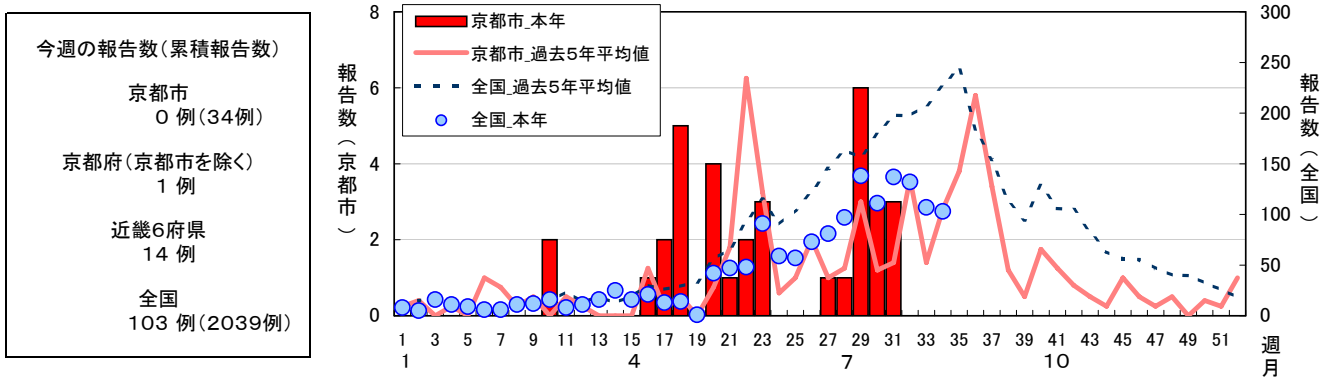
(注)京都市のデータは、平成21年8月27日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第34週)と先週(第33週)の定点当たり報告数の比較



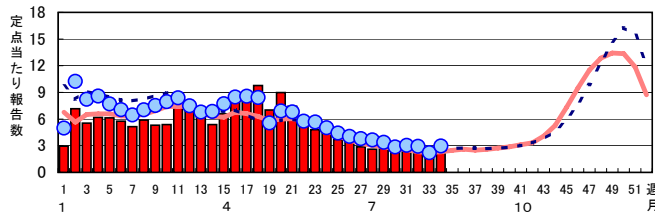
## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



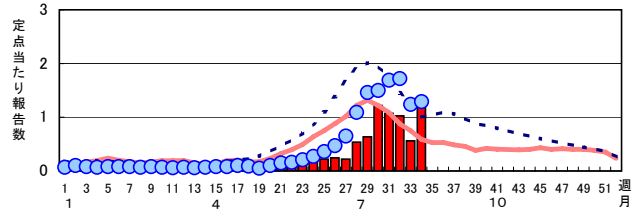
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

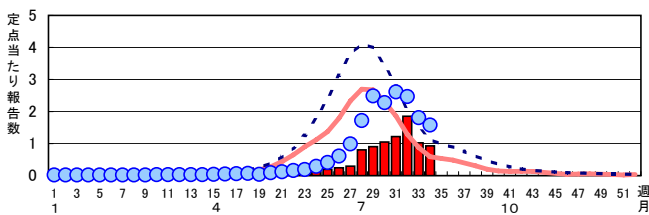
1 感染性胃腸炎



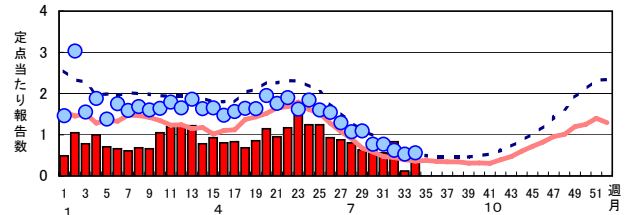
2 手足口病



3 ヘルパンギーナ

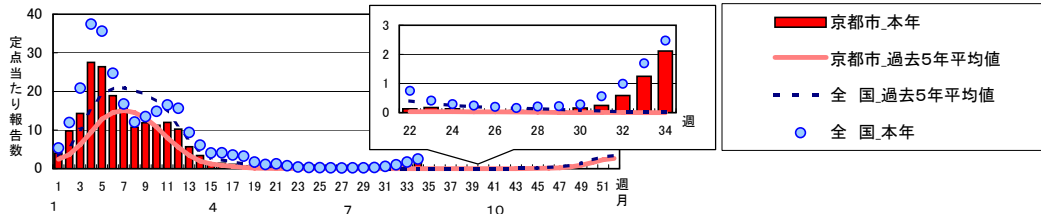


4 水痘



<インフルエンザ定点>

インフルエンザ



# 第34週(8月17日～8月23日)のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は2.12(144例)で、先週(1.25)に比べて、約1.7倍となっています。

近畿圏内の都道府県別定点当たり報告数をみると、先週に比べて、ほとんどが増加しています。

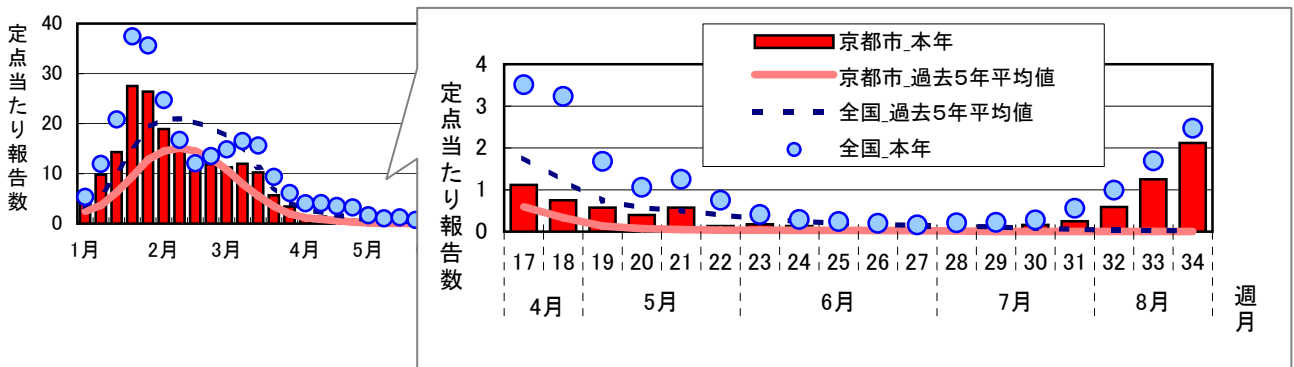
行政区別にみると、すべての行政区(11)から報告があり、8行政区で先週に比べ増加しています。

なお、第34週に集団発生の診断目的等のために京都市衛生公害研究所に搬入されたインフルエンザの検体(34例)のうち、33例がAH1pdm(新型)となっています。

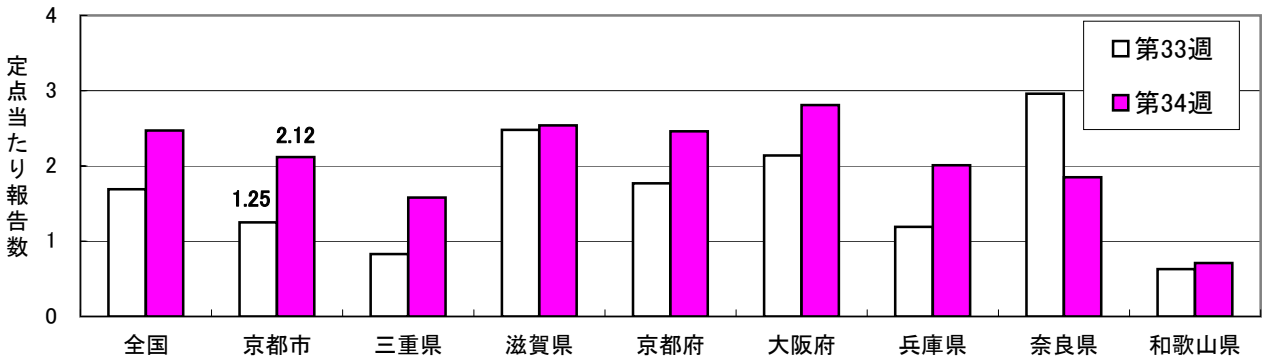
今後、更なる感染の拡大が予想されますので、特に、慢性呼吸器疾患や慢性心疾患等の基礎疾患を有する方や妊娠中の方、乳幼児等、重篤化するリスクが高い方々は、注意が必要です。

※第30週以降、インフルエンザの報告には、「季節性インフルエンザ」と「新型インフルエンザ(A/H1N1)」が含まれています。

本市及び全国の定点当たり報告数 推移



近畿圏内の都道府県別定点当たり報告数



行政区別定点当たり報告数の推移

